



2025年2月19日、千葉市民会館小ホールにて、千葉地本「第45回定期委員会」が開催され、成田支部からも2人の委員が発言し、地本の運動方針に肉付けをしました。



寺西委員

資本主義社会では資本側に労働力を売り、賃金を得て生きていくしかない。一人では権力に勝てないからこそ、労働組合として賃金改善を要求し、会社のチェック機能を果たす事が重要。

職場から25春闘を意識して創っている。業務の多能化が進み、仕事量は確実に増えている。超勤ありきではなく、自分の賃金を知ることが大切だ。

かつて色々な職業を経験したが、いずれも労働組合は無く、存在すら知らなかった。仲間と繋がり、辛い時に相談に乗ってくれたり、楽しい時を共有出来たりする事に存在意義を感じる。

みんなの1つ1つの行動で、労働組合が必要と感じる人は確実に増えている。旗振り役がきちんとしないと、職場はまとまらない。自分も意識して仕事や活動をしていく。



渡邊委員

経営のパートナーとされる**社友会**は
会員より会社を守る事態が明らかとなった…
なぜなら、武蔵小金井駅暴行事件では、

暴行を受けた本人(社友会会員)を守らなかった!

会社と対等に議論出来るのは労働組合だけ!



**東労組に結集し、
全組合員のたたかいで
25春闘に勝利しよう!**